

健やか親子21の推進について（概要）

21世紀の母子保健

2001年（平成13年）

「健やか親子21」スタート

妊産婦死亡や乳幼児の事故死亡など、世界最高水準に達しきれなかった課題や、思春期における健康問題、育児不安や児童虐待をはじめとする親子の心の問題があります。

そこで「健やか親子21」をつくりました。



「健やか親子21」

- 21世紀の母子保健における取組の課題として目標（値）を示しました。
- 国民をはじめ、関係機関・団体が一体となつて行う国民運動計画です。
- 関係機関・団体が「健やか親子21推進協議会」を設立し、運動を推進しています。

2003年（平成15年）

次世代育成支援対策推進法 児童福祉法の改正

子どもを生みたい人が安心して生み育てることができるように、次代を担う子どもたちが健やかに育つように、国や地方自治体、企業等や国民がみんなで取り組むために、次世代育成支援対策推進法と児童福祉法の改正を行いました。

市区町村・都道府県・企業等は具体的な取組方を掲げた行動計画を策定して子育て支援を推進することになります。

2005年（平成17年）

行動計画スタート

「健やか親子21」中間見直し



行動計画は「健やか親子21」を踏まえて策定されることから、「健やか親子21」のさらなる推進が期待されます。

2010年（平成22年）

「健やか親子21」目標達成!!

21世紀初頭における母子保健の国民運動計画

課 題

思春期の
保健対策の強化と
健康教育の推進

親 応援期
子 思春期



妊娠・出産に関する
安全性と快適さの
確保と不妊への支援

親 妊産婦～
産じょく期
子 胎児期



小児保健医療水準を
維持・向上させるための
環境整備

親 育児期
子 新生児期～
乳幼児期～小児期



子どもの心の
安らかな発達の促進と
育児不安の軽減

親 育児期
子 新生児期～
乳幼児期～小児期



「健やか親子21」

2001 ▶ 2010年

現状（ベースライン）

2010年の目標

十代の人工妊娠中絶実施率

12.1

※2000年 人口千対15歳以上
20歳未満の女子(44,477人)

十代の性感染症罹患率

性器クラミジア感染症 淋菌感染症
男子 196.0 男子 145.2
女子 968.0 女子 132.2

※2000年 人口10万対
有症感染率15~19歳

15歳の女性の思春期やせ症
(神経性食欲不振症)の発生頻度

不健康やせ 中学3年 5.5%
高校3年 13.2%
思春期やせ症 中学1年~高校3年 2.3%

※2002年
「不健康やせ」とは何らかの健康影響を
もたらす可能性のあるやせ
「思春期やせ症」には思春期やせ症の
疑いのある生徒を含む

減少傾向へ

妊産婦死亡率

6.6(78人)

※2000年 出生10万対

半減

産後うつ病の発生率

13.4%

※2001年

減少傾向へ

周産期医療ネットワークの整備

14都府県

※2000年

2005年
全都道府県

全出生数中の極低出生児の割合
全出生数中の低出生児の割合

極低出生児 0.7%
低出生児 8.6%

※2000年

減少傾向へ

不慮の事故死亡率

0歳 18.2 10~14歳 2.6
1~4歳 6.6 15~19歳 14.2
5~9歳 4.0

※2000年 人口10万対

半減

初期、二次、三次の小児救急医療体制が
整備されている都道府県の割合

初期 70.2%(33都府県)
二次 12.8%(6府県)
三次 100%

※2001年

100%

虐待による死亡数

44人

※2000年
児童虐待事件における
被害児童数

減少傾向へ

育児に参加する父親の割合

よくやっている 37.4%
時々やっている 45.4%

※2000年

増加傾向へ

出生後1ヶ月時の母乳育児の割合

44.8%

※2000年

目標達成に向けみんなで運動

国民(みんな)

みんなの生きる力の向上と運動推進のための環境整備

「か親子21」推進協議会(地方公共団体・専門団体・民間団体)

支援

国(厚生労働省・文部科学省等)

